

令和7年度第1回（第12回） 常総市総合教育会議 会議録（要旨）

【日 時】 令和7年6月18日（水）午後1時25分～3時07分

【場 所】 常総市役所3階 庁議室

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議・報告事項
 - （1）令和7年度予算と次年度に向けた課題について
 - （2）常総市教育大綱について
 - （3）その他 ①中学生議会
②その他
- 4 閉会

出 席 者

教 育 委 員：服部 仁一教育長，秋田 敏雄委員，荻根 文江委員，倉持 好一委員，中山 奈央委員

常 総 市：神達 岳志市長，小渕 康正副市長，小林市長公室長，斎藤政策調整監，倉持教育部長

（学校教育課）平塚課長，松村課長補佐，高野教育政策室長，田内総務係長

（生涯学習課）小川課長，田中課長補佐，池田スポーツコミッション室長

（指 導 課）小堀課長，大里指導主事，渡邊指導主事

（学校給食センター）服部所長

（図書館）柴田館長，門井副館長

（常創戦略課）倉持課長，宮地課長補佐，金子計画推進係長，細谷計画推進係主事

1 開会（13：25）

事務局 ただいまから、第12回（令和7年度第1回）総合教育会議を開催します。

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

議事に先立ちまして、出席者の紹介はお手元の席次表や名簿があるので、そちらの方でご確認をお願いします。

次に、改めて総合教育会議の背景及び目的についてご説明する。総合教育会議は、国で教育委員会制度の見直しが行われ、平成26年度の通常国会において「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が可決・成立したことにより、各自治体に設置された。本市においても総合教育会議運営要綱を定めて、それに基づき運営をしている。

また、総合教育会議は市長と教育委員で構成され、会議の中で、重点的に講ずべき施策や子どもたちを取り巻く様々な課題について協議・調整を行うことで市政や教育行政のさまざまな課題について効率的に取り組むこととされた。

さらに、総合教育会議では首長が教育行政に果たす責任や役割を明確にし、首長が公の場で教育政策について議論することが可能となり、市長部局と教育委員会が協議及び調整することにより、両者が教育行政の方向性を共有・一致して執行にあたることが可能となる。総合教育会議では、予算や条例提案等に加えて、保育や福祉等の首長の権限に関わる事項についても協議・調整を行うほか、教育委員会のみの権限に属する事柄についても自由な意見交換を行うことが想定されているので、その趣旨にのっとり、活発な意見交換をお願いしたい。

過去数年は2月開催だったが、会議でのご意見を踏まえて、施策の執行や令和8年度予算の検討にしっかりと活用できるように、今年度から6月開催としたところ。市当局及び市教育委員会での今後の予算検討に活かしていきたい。

最後に、本日の内容は議事録として事務局で取りまとめ、皆さまにご確認いただいた上で、市のホームページにて公開するので、ご協力をお願いしたい。

2 市長あいさつ

市長 本日は、お集まりいただきありがとうございます。また、日頃から市政に多大なるご協力をいただきありがとうございます。

常総市は常総水害から10年、総合教育会議の設置からも10年となる。総合教育会議が設置されるまでは、行政は教育界には口を出せない立場だった。教育再生首長会議や全国市長会からも要望があり、制度改正を行い、総合教育会議が設置された。今でも、市長が教育に口を出せないと言っている首長もいる。教育委員会でも予算を決めているが、それに加えて市当局の行政予算でもしっかりと教育に関する予算を確保して、教育行政を進めていきたい。例えば、給食のお米、ALTの予算、英語教育の予算も行政部局で予算をしっかりと確保して子どもたちの教育へ寄与していきたい。教育長、教育委員にも協力いただき、未来を創る子どもたちの人材育成を行っていきたい。今年度より、市の政策の方向性として、「こどもまんなかまちづくり」を市政の骨太の方針として位置づけている。未来を担う子どもたちを真ん中に置いて、より良い教育環境と生活環境を作っていきたいので、引き続きご協力をお願いします。

3 協議・報告事項

(1) 令和7年度予算と次年度に向けた課題について

【① 市の予算事業の概要について】

常創戦略課 本市全体に係る令和7年度予算の概要についてご説明する。忌憚のないご意見をいただきたい。

常総市の骨太の方針として大きな柱を打ち立てて、それに基づく予算編成を令和7年度から実施している。こどもまんなかまちづくり常総、さらなる防災先進都市の確立の2つとなる。他にも、重要な施策はたくさんあるが、これらを柱に据えて事務を執行している。

こどもまんなかまちづくりは、子どもたちを真ん中に据えて政策を考えていこうというもの。教育環境の充実、子育て世帯への経済的負担の軽減、子どもの居場所づくり、子育て環境の充実などが挙げられる。例えば、水海道市街地のまちづくり事業として、市民の広場をリニューアルして、子どもたちが集まる場所を作っていく。また、A I まちづくりのさらなる推進施策として、子どもたちにA I を使ってもらえるようにするなどを計画している。小児科神経発達外来運営支援、赤ちゃん応援ギフトなどの事業もある。定住促進のため、空き家の活用や、奨学金の返還支援事業も展開していく。不登校児へのケアや教育D X化の推進なども実施する。

さらなる防災先進都市の確立として、シンポジウムの開催や次の10年間にに向けた取組も行っていく。

その他事業としては、合併20周年記念事業を行い、ずっと住み続けたい場所となるような取組を行う。また、人が大切ということで地域コミュニティへの支援も実施していく。6次産業化事業や、カーボンニュートラル事業として省エネ家電の買換え事業なども実施していく。

荻根委員 こどもまんなかまちづくり常総の中の、小児科の神経発達外来事業の詳細を教えてください。

常創戦略課 きぬ医師会病院に小児科内に小児発達外来を設置して、相談や継続診療できるようにしていくものである。

荻根委員 発達外来の病院は敷居が高いと感じる。家庭的な雰囲気にするため空き家を活用して、まちの中で歩いていけるような気軽に相談できる窓口があると良い。

市長 常総市の課題は小児科が少ないのが課題である。最近発達障害の児童が増えている現状がある。まずは、きぬ医師会に協力をいただきながら対応を検討しているところ。その中で、病児・病後児保育も今年度から開始する予定。きぬ医師会病院の中に施設を整備してもらう方向で検討している。働くお父さんとお母さんの助けにもつなげていきたい。

倉持委員 豊岡地区で防災組織を立ち上げて、これまで 140 万円いただいて防災備品を整備した。20 年間手を付けていない集会所も修繕する予定。個人的には、省エネ家電の買換えで、エアコンの入替も申請したところ。

また、個人で空き家を 2 軒所有しているが、壊すのにもお金がかかる。地区にも空き家がたくさんある。空き家対策の具体的なところをお聞きしたい。また、地域コミュニティ協議会支援補助金の内容を教えてください。具体的な対象が分かれば教えてください。

常創戦略課 空き家バンクとは、空き家の利活用を促進するものであり、所有者が空き家バンクに登録し、所有者が修繕したり、取得したりする場合に補助金を交付するもの。それにより定住促進を図るもの。市内では空き家が約 400 戸ある現状。空き家バンクに登録した空き家を市内外の方に案内する。まずは登録してもらい、活用を検討していく。

地域コミュニティ協議会支援補助金は、地域コミュニティ協議会を小学校区単位で組織をつくり、地域も多様化し、地域の希薄化が進んでいる中で、地域内で課題を解決するため、そういった協議会へ補助をしていくというもの。市でも伴走しながら組織の立ち上げも支援していく。

倉持委員 自治会に入らない人が増えている。地区の集まりがあっても出てこなかったり、集まらなかったりする。地域の組織がなかなかうまく動いていない現状がある。民生委員なども含めていろいろな人を絡めて、連携していくという感じなのか。

市長 市内で 217 の自治区があるが、区長や班長のなり手がいない。人が減る中で、自治区や集会所の維持管理が問題になっている。市内全体を見回すと、民生委員、児童委員、子ども会育成会、消防団、子ども会、それぞれ頑張っているが、それらを横連携して、総括するハブとして協議会を作る。これを小学校区単位でやろうというもの。先日、石下の豊田地区で協議会を設立した。地域の現状が異なる中で、今の自治区のあり方も変わっているはず。小学校単位で防災、コミュニティ、子育てを絡めてやるもの。豊田地区の協議会では、まず花見会を企画して、子どもが活躍する場を作ってくれた。区長とか大変な人だけがつらくならないようにしたい。ぜひ豊岡地区でも作りたい。ぜひ倉持先生の空き家も登録してもらいたい。空き家バンクは出会いの場なので、ぜひ活用してもらいたい。

【② 市教育委員会の予算事業の概要について】

学校教育課長 市の教育委員運営方針とは、市の教育委員会で、常総市教育大綱に基づき、本年度の主要な施策目標を設定しているもの。

その中で、学校教育課の所管事業として、本年度の重点事項は、ICT の効果的な活用と支援の充実、学校施設の適正配置と老朽化対策がある。小学校の適正配置の取組として、五箇小学校と大生小学校の統合、石下小学校・玉小学校・豊田小学校の統合の取組を進めていく。本年度は、意見交換会の実施とともに統合に関するアンケートを実施して、検討委員会で協議していく予定。

施設の老朽化対策として、三妻小学校・飯沼小学校・玉小学校・豊田小学校の普通教室近くのトイレの洋式化工事を実施し、岡田小学校・水海道中学校は設計業務を予定し、令和 8 年度に完了する予定。教職員トイレの改修は予定していないが、その洋式化を検討するこ

とも課題と認識している。今年度より、包括管理業務に修繕業務が含まれることになったため、業務の効率化と安全確保が迅速になることを期待している。

G I G Aスクールの更なる推進として、タブレットの更新やネットワーク環境の更新、校務支援システムの更新を検討していく。

就学支援の充実として、奨学金の貸与制度も拡大する。

就学前教育の充実として、公立幼稚園では外国籍の児童が増えており、コミュニケーションが難しくなっている。特に在籍児が多い、にじいろ幼稚園に支援員を配置しているが、多国籍の言語に対応するのが課題となっている。

生涯学習課長 生涯学習課の所管事業では、本年度の重点項目として4つ設定している。市民一人ひとりのライフステージに応じた多様な生涯学習機会の提供、地域交流センターを中心とした市内外の交流促進、市民の文化芸術活動の支援と文化財の保護保全活用推進、青少年健全育成に取り組む組織への支援となる。

生涯学習を充実させるために、学習施設の機能充実と学習プログラムの提供による市民の生涯学習の支援、公民館活動を通じた地域の活性化の取組、訪問型家庭教育支援として外国にルーツを持つ家庭の孤立支援を進めていく。

地域文化の醸成として、文化芸術推進基本計画に基づき施策を展開し、長塚節文学賞の実施、文化財の調査及び保護を行い、地域固有の歴史文化を適切に保存していく。

青少年育成として、関係組織との連携や放課後こども教室の実施を通じて、青少年の健全育成を行っていく。

生涯スポーツの推進として、安全安心なスポーツ環境の整備、社会体育施設の指定管理者との連携による施設の有効活用、学校部活動の地域移行の推進を行う。

社会体育施設の指定管理については、今年度よりミズノからシンコースポーツ・前田建設・F B SによるJ V（ジョイントベンチャー）へ変更となった。変更後のシンコースポーツは実績もある。シンコースポーツではソフト事業、前田建設・F B Sは施設管理と整備を担当している。また、老朽化した水海道公民館と児童センターの複合施設を令和8年オープンを目標に整備に着手している。

指導課長 指導課の所管事業では、主体的対話的で深い学び、従来の指導にベストミックスさせるI C Tの活用、外国語児童生徒への支援が3つのキーワードとなる。

市独自の学校活性化加配講師・教育補助員・外国人児童生徒支援員の配置と活用、いじめの未然防止のための居場所づくりと絆づくりとしてオリエンテーションキャンプの実施、いじめの積極的な認知と組織的対応、適応指導教室と学校との連絡体制強化、水海道中学校夜間学級の実施。基礎学力の向上のため常総ほっとスタディ教室の実施。郷土愛を育てるための中学生議会の実施、教職員の資質向上のためのオリジナル研修であるJ O S O教員アカデミーの実施、スクールカウンセラーの正職員を適応指導教室へ配置、各種相談のオンライン形式での実施体制、筑波大学でのオリジナルオープンキャンパス等を実施する。

給食センター長 学校給食センターでは、安全安心で美味しい学校給食の提供と食育の更なる推進及び常総市産や茨城県産の食材の活用を進める。国の交付金なども活用して、給食費の値上げをしない対応を継続して、給食の質が下がらないように対応していく。また、豊岡と玉の2つの

給食センターの統合も含めて今後のあり方を検討している。

図書館長 図書館では、引き続き、読書教育の充実を進めていく。常総市立図書館の図書の所蔵数は 14 万点、CD は約 1 万点となっている。図書の選定にあたっては、新しいものをどんどん取り入れていくようにしている。利用者からのリクエストをいただいて購入するものもある。県立図書館や近隣市町村の図書館との相互貸借を活用して、図書の貸出に出来る限り対応している。雑誌スポンサーは 3 社に提供・協力をいただいております、協力事業者を増やすのが今後の課題である。子育て応援事業として、12 か月児健診の際に絵本とのふれあい体験や絵本をプレゼントしている。暑い季節は、図書館へ親子で来てもらえるように広報していく。また、国有形登録文化財である二水会館の維持管理も課題で、合併 20 周年事業等で活用するが、老朽化対策が必要不可欠だと考えている。

秋田委員 「こどもまんなかまちづくり」は賛成である。子どもへの投資は大切なこと。常総市の将来を守っていく、さらに次の世代にバトンタッチしていくには、今の子どもたちに郷土愛を持てるのか、夢や希望を持てるのかを考えていただくのが良いと思う。うちの自治区は 18 件があるが、小学生は 2 人しかいない。夏まつりも出来ない。大人が軽トラに載せていくだけになってしまう。今の常総市、空き家が増えて先細りしていつてしまう。少子化と高齢化で、腰がまがって畑が出来ない。外から来た人が畑を借りて、野菜を東京で売っているというような事例もある。考え方をどこに持っていくのか、視点を定めると良い事業になると思う。

中山委員 施設の利用の点についてお願いがある。テニスコートや生涯学習センターの部屋を借りて、子どもたちが勉強するのに使っている。生涯学習センターは、3 日前までに生涯学習センターの窓口に行って申し込む形だが、それだと当日に使いたくても使えない。ホームページやアプリで、ワンクリックで予約できると良い。もっと活用しやすくなると思う。

教育部長 市の所管施設ではDXを進めたい。スマホで簡単に予約できると良い。一方でお年寄りの利用者には、今まで通りのやり方も必要。3 日前までに予約というところは見直ししていきたい。

市長 公共施設の予約問題は、なかなか改善していない。公民館も鍵の管理人から借りる形になっている。お互いに不便である。

教育部長 まずは最初の実組として、学校開放の体育館の鍵の貸し借りについては電子化している。それを踏まえて、拡大していきたい。

市長 少しずつでも前に進めていきたい。水海道のまちなかの複合施設では、ご提案いただいたような方式で使いやすいものにしていきたい。市民にとって使いやすいものにしていかないといけない。

教 育 長 おっしゃる通りだと思う。自分もそうだが、施設を使いたいと思うのは直前になることが多い。教育委員会として一所懸命取り組む。

荻根委員 空き家を活用して若い子が起業したいということを学べる機会を創れると良い。企業を集めて、長期で貸し出すとか。うまく使える形にできると思う。GIGAスクールもAIも進んでいる。子どもたちの方が大人より、学びの機会が多い。常総市にいても、世界につながれるように。幸い、常総市は海外の方が多い。給食でも、地場の食材も大切だが、目線を変えて世界の食材・料理を出してもいいと思う。

給食センター長 地場産の食材を使っているが、現在G7サミットがカナダで開かれているところで、給食でカナダの料理を出している。他にも、各都道府県の郷土料理も出して、学習につなげているので、引き続き、取り組みを続けていきたい。

市長 子どもや大人のAI教育は大切。空き家・空き店舗を活用して、スタートアップ企業への支援も進めていきたい。

副市長 防災先進都市として、過去には鬼怒川だけでなく、小貝川も決壊しており、水害が多いであるが、その水運を利用して発展してきた地域であるといった歴史を学ぶことも重要。他方で、最近の雨の降り方を見ると、水不足になるという心配があるが、そうした状況の中で、農業用水、水道水など、水を大切に使おうということも学んでほしいと思う。水海道と石下の歴史と文化を学んでほしい。ダムへ見学に行くことも大切。

市長 教育長にお願いだが、郷土教育も引き続きお願いします。

（２）常総市教育大綱について

指導課 地方教育行政の組織及び運営に関する法律が平成27年に改正され、平成28年10月の第三回総合教育会議で常総市教育大綱が決定された。その内容を変更する際には、総合教育会議に諮ることとされているため、本日説明させていただく。

教育大綱の定義として、大綱は地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策についての目標や施策の根本となる方針を定めるものであり、詳細な施策について策定することは求められていない。また、教育振興基本計画やその他の計画を定めている場合、その目標や方針が大綱に該当すると位置づけることができると考えられることから、別に大綱を策定する必要はないとされている。

市の総合計画後期基本計画の中の、学校教育・生涯学習の推進の部分をもって、市の教育大綱に代えることとしたい。

また、現在の市教育大綱については、随時指導課において内容を見直し、市の学校教育のグランドデザインとして、幼稚園・小学校・中学校へ示していきたいと考えている。

教育部長 補足させていただくと、これまでの教育大綱は、軽微な修正であっても柔軟な対応が出来ないというものであった。基本計画は、市の最上位計画に位置付けられている。グランドデザインは適切に毎年見直していきたい。近隣自治体も同じように設定しているので、同じ

ように総合計画の中で位置付けたい。

市長 茨城県も同じように、県の総合計画の中で位置付けている。このように、市の教育大綱も同じようにさせていただく。

(3) その他

【① 中学生議会の令和6年度実績及び令和7年度開催報告】

常創戦略課 中学生議会は、平成21年から長年にわたり、毎年実施してきている。こどもまんなかまちづくりとして、若い子どもたちの意見を市政に反映することにもつながっている。市の職員にも、中学生当時に実際に中学生議会に参加して発表している者もいる。未来にタネをまくということでこれまでも進めてきた。

総合学習の一環として、一部の生徒だけでなく、学校として取り組んでいただいているところである。

市長 毎年、大変貴重な意見をもらっている。各中学校の先生にも協力いただき、また中学生が自ら動く提案をしてもらっている。実際の市の施策にもつながっている。

【② その他】

教育長 委員から大変貴重な意見をいただいた。子どもたちの現状や思いも分かった。将来に向けて何をすればいいか。市長の方でもこどもまんなかで、子どもたちの居場所づくりや、AIなども進められている。教育委員会でも一つギアを上げて、教育委員や保護者、子どもたちの思いにこたえられるように、また、そういう子どもたちが将来定住してもらえるように取り組んでいきたい。

4 閉会（15：07）